

目黒区いきもの住民台帳

身近に暮らすみどりのなかまたち

List of bees of Meguro City

めぐろく 目黒区のはち



地球のいのち、つないでいこう



ささえあういのちの輪 目黒区生物多様性

目黒区

目黒区は、生物多様性地域戦略[※]を定め、自然と共生するまちづくりを推進しています。その基礎資料とするため、区内のいきものの変化を捉える身近な生物調査や専門機関によるみどりの実態調査[※]を継続しています。

「目黒区いきもの住民台帳」は、これらの調査の結果を区で記録された生物の種名リストとして集計したものです。住民台帳の名は、身近な場所に暮らす「いきもの」たちを、私たちとともにすむ「目黒区の住民」としてとらえたもので、2009年におよそ3,000種類の動植物等を掲載した暫定版を公開しました。今回は人々の暮らしに役立っているハチについて紹介するものです。

ハチの分類や生態等の記述については須田真一氏(東京大学総合研究博物館研究事業協力者)にご監修していただきました。

いきものは、自然の中でそれぞれ欠かすことのできない固有の働きをしながら、地域の自然を形づくっています。気象の変化など身の回りの環境の変化が見られる現在、生物の記録は私たちのまちの自然の現状を知り、生物多様性[※]の保全や回復を進めていく資料として大変重要なものとなっています。

目黒区生物多様性地域戦略「ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画」では、野鳥を都市における生物多様性確保のシンボルとして捉え、エコロジカルネットワーク[※]の形成などを目指しています。この冊子が身近な環境に目を向ける機会となり、学習や地域活動の参考になれば幸いです。

作成にあたりご指導をいただきました須田真一氏ほか、観察記録などの情報をいただきました多くの区民の方々、定点観測員[※]、自然通信員[※]、いきもの発見隊[※]・駒場野自然クラブ[※]等参加者、公園活動登録団体[※]、駒場野公園自然観察舎、中目黒公園花とみどりの学習館、区立小学校、自由が丘商店街振興組合、日本工業大学駒場中学高等学校・園芸養蜂愛好会ほか皆様のご協力に感謝申し上げます。

目黒区都市整備部みどり土木政策課



将来の都市養蜂活動のイメージ

目黒区は、東京23区の西南部に位置し、渋谷区、品川区、大田区、世田谷区に隣接します住宅系用途地域が8割以上を占める住宅地を主体としたまちで、面積は14.67km²、人口は278,088人(2022年2月1日時点)です。



図 主な公園

総合庁舎のある上目黒2丁目は緯度35度38分、経度139度41分です。

緑被率[※]は17.3%で東京23区中13位、水面が見える河川は、目黒川の大橋より下流、呑川の緑が丘3丁目の下流です。

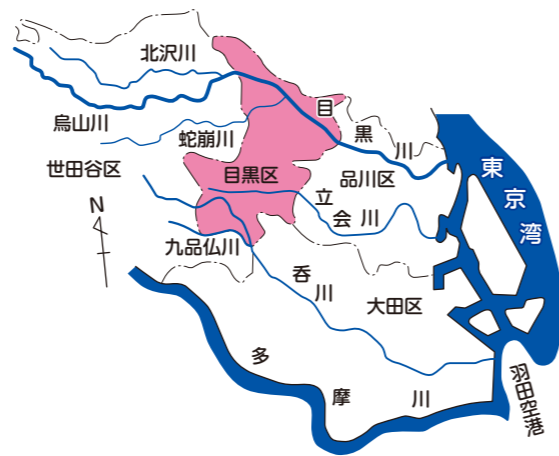


図 目黒区の水系(2000:目黒区基本計画より)

<p>あ</p> <p>いきもの発見隊 (いきものはつけないたい)</p> <p>イベント型住民参加調査。親子などの参加者が身近ないきものを探して記録し、自然の大切さや街に自然を呼び戻す工夫を考える [区]</p> <p>エコロジカルネットワーク (えころじかるねとわーく)</p> <p>散在する緑地を緑道や街路樹でつなぎ、いきものがすみ、移動できる緑地を効果的に配置した緑地のネットワーク(目黒区生物多様性地域戦略より)</p> <p>か</p> <p>公園活動登録団体 (こうえんかつどうとうろくだんたい)</p> <p>公園の清掃・花壇管理等の維持管理活動や、地域住民を対象としたイベント企画運営活動を行うボランティア活動団体。「住民参加による公園活性化のための要</p>	<p>網(ようこう) (2001(平成13)年2月要綱(ようこう)制定)により区が登録し、区は一定の支援を行う [区]</p> <p>駒場野自然クラブ (こまばのしぜんくらぶ)</p> <p>駒場野公園の貴重な自然を地域の方の参加により守り伝える活動で、駒場野公園が開園した昭和61年から続いている。駒場野公園の雑木(ぞうき)林(ばやし)管理や自然観察などの活動を年間を通して行い、身近な自然とのふれあいやいきものとの出会い、草刈りや炭焼きなどの作業が子どもたちの貴重な原体験や学習の場となっている [区]</p> <p>さ</p> <p>自然通信員 (しぜんつうしんいん)</p> <p>身近な自然の観察記録を区に報告するボランティア。記録は生物季節や経年変化の把握などに活かされている [区]</p>	<p>た</p> <p>定点観測員 (ていてんかんそくいん)</p> <p>自然通信員のうち、公園や庭など身近な場所を観測地として、開花日・野鳥などの初鳴き日、初見日など四季の変化を継続的に観察するボランティア [区]</p> <p>ま</p> <p>みどりの実態調査 (みどりのじつたいちようさ)</p> <p>目黒区みどりの条例に基づき、定期的実施する区内の緑の実態に関する調査。昭和47(1972)年度、52(1977)年度、60(1985)年度、平成4(1992)年度16(2004)年度、26(2014)年度に実施している [区]</p> <p>ら</p> <p>緑被率 (りょくひりつ)</p> <p>上空から見て、樹幹や草地などみどりで覆われた面積が占める割合</p>
--	---	--

私たちの暮らしに役立つハチ

まえがき

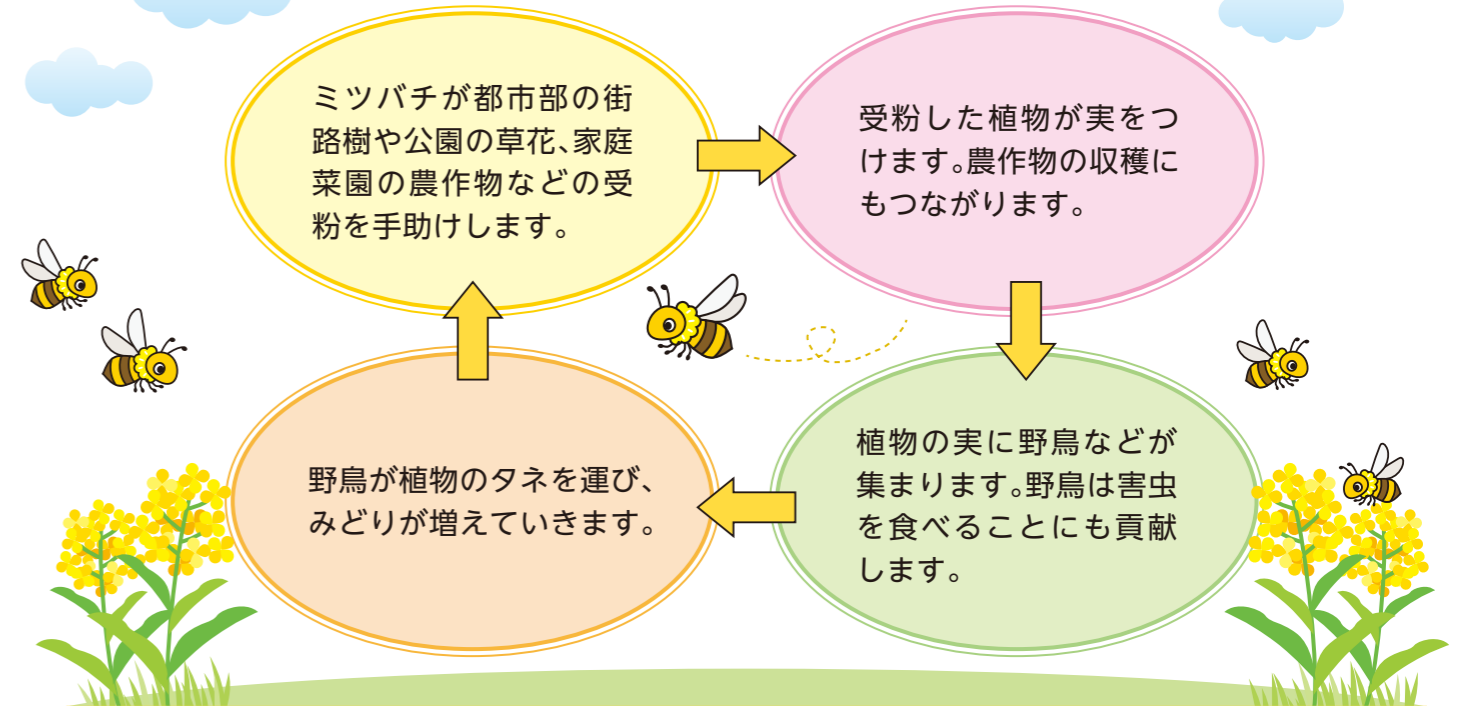
みなさんにとってハチのイメージとはなんでしょうか。針を持っていて人を刺す怖いいきものというイメージを持っているかもしれません。確かに、人の事を刺すハチのなかまもいますが、温厚で臆病な性格のハチのなかまもいます。よく見かけるのは、公園や街の花壇にミツを集めに来ているハナバチのなかまかもしれません。

そんな身近なハチですが、実は人々の暮らしに役立っています。ハチミツはもちろん、みなさんが普段食べている野菜や果物もハチのおかげかもしれません。

このグリーンデータブックでは、人々の暮らしと密接な関係のあるハチについて、生態や種類などを紹介しています。区民の方々がよく見かける種類を中心に掲載しました。



ミツバチがもたらす恩恵の例



実はこんな身近なところで ハチが関係している！



植物の葉を食べて育つハチ
(ハバチの紹介)

P6



花壇などでよく見られるハチ
(ハナバチの紹介)

P4

ハチ博士になろう！
クイズに挑戦

P12



普段食べてる野菜や果物も
ハチのおかげ

P13



昆虫に卵を産むハチ
(寄生バチの紹介)

P8

ハチに迫っている
危機?!

P14



街の中でハチを育てる
「都市養蜂」ってなんだろう?

P15



昆虫などを食べて育つハチ
(カリバチの紹介)

P10



コラム
ハチと身近な生物多様性

P16

目黒区で確認されている
ハチ目リスト

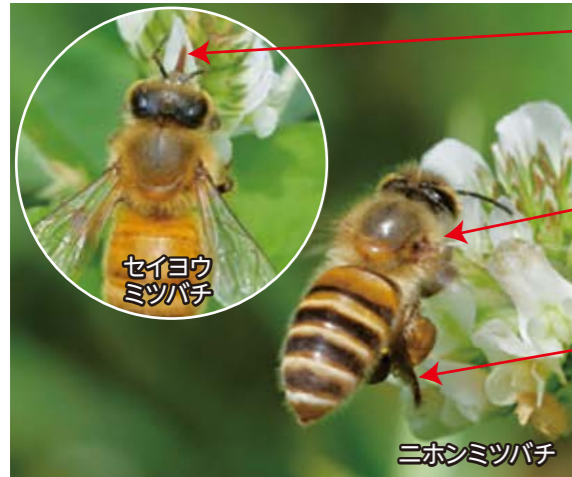
P17

花壇などでよく見られるハチ

ハナバチのなかま

特徴

ハナバチは花を訪れ、花の蜜や花粉を餌にして子育てをするハチです。花の蜜や花粉をたくさん花から集めなければならないため大変ですが、他の虫を捕まえる必要がなく、逃げたりすることはありません。ハナバチの中には女王バチを中心とした生活をする社会性のハナバチや、社会性を持たない単独で巣をつくるハナバチがあります。



中舌

花の蜜を吸うためのブラシ状の細かい毛に覆われた長い舌のような構造を持っています。ハナバチ以外にも多くのハチが中舌を持っていますが、ハナバチは特にこの中舌が長く伸びています。

体毛

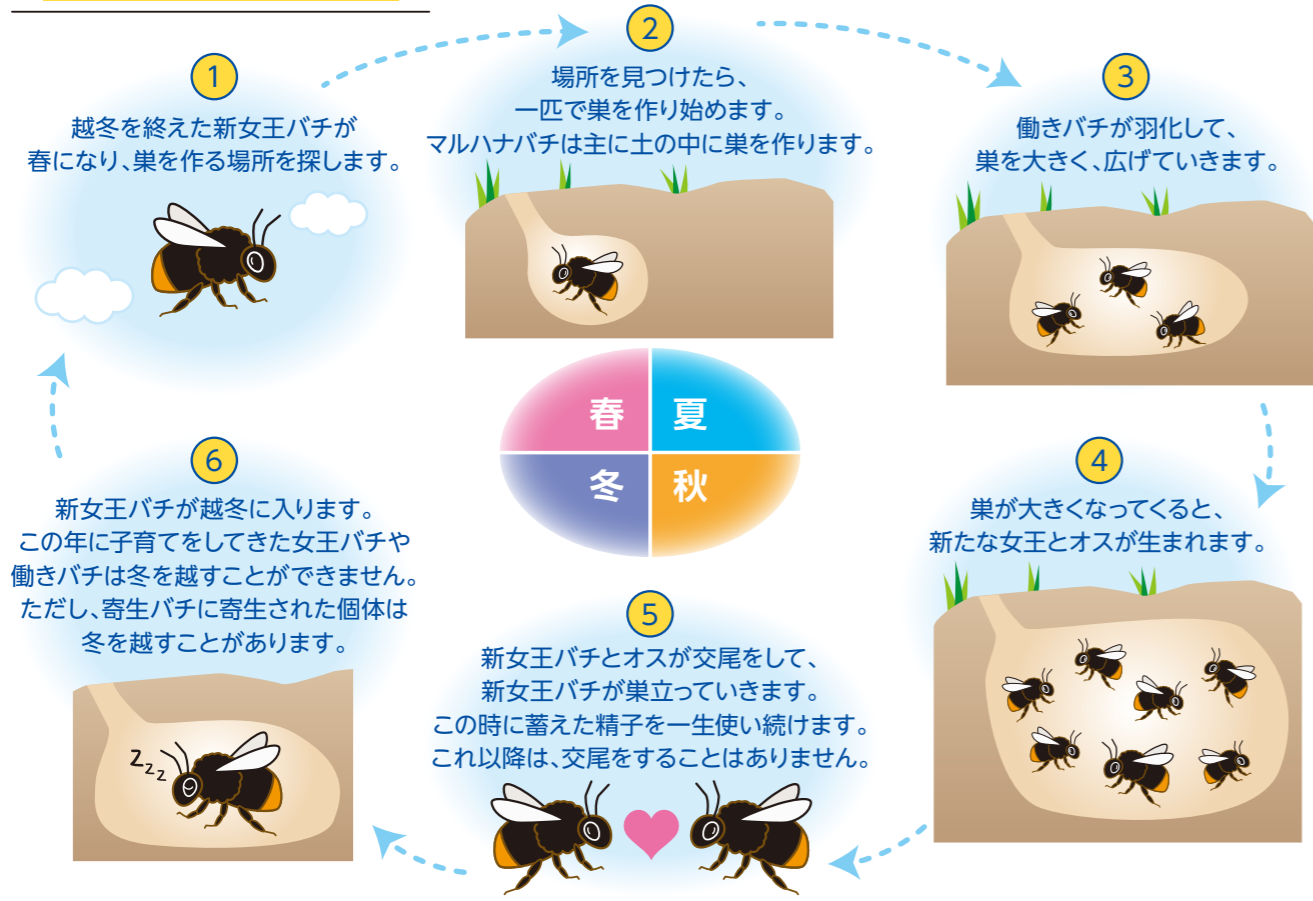
体毛の1本1本は細かく枝分れしていて、花粉が毛につきやすい構造になっています。

後脚

ミツバチの場合、後ろ脚の花粉かごと呼ばれる場所に、体についた花粉を集めて、花粉団子を作ります。これで効率よく、餌を巣に持ち帰ることができます。

マルハナバチの一生

マルハナバチを例に、年間の暮らしを見てみましょう。



目黒区で見られるハナバチのなかま

ニホンミツバチ

(ミツバチ科)

学名: *Apis cerana japonica*

社会性



全体が黒っぽい 翅脈がある

大きさ 女王バチ: 13~17mm
働きバチ: 10~13mm
オスバチ: 12~13mm

特徴 ニホンミツバチは日本の在来種です。セイヨウミツバチに比べると、身体全体が黒っぽいのが特徴です。

訪花植物 シロツメクサ、エゴノキ、クロガネモチ、トチノキ、ナツツバキなど

セイヨウミツバチ

(ミツバチ科)

学名: *Apis mellifera*

社会性



全体が黄色っぽい 翅脈がない

大きさ 女王バチ: 15~20mm
働きバチ: 12~14mm
オスバチ: 15~17mm

特徴 ヨウシュ(洋種)ミツバチとも呼ばれます。養蜂に使われていて、ハチミツを取る他に、農作物の花粉を媒介するポリネーターとして役立っています。

訪花植物 シロツメクサ、エゴノキ、クロガネモチ、トチノキ、ナツツバキ、イイギリなど

コマルハナバチ

(ミツバチ科)

学名: *Bombus ardens ardens*

社会性



大きさ 女王バチ: 16~22mm
働きバチ: 8~16mm
オスバチ: 11~15mm

特徴 体の色がオスとメスで異なります。オスは黄色、メスは黒色です。

訪花植物 シロツメクサ、サクラ類、ツツジ類、イボタノキなど

シロスジヒゲナガハナバチ

(ミツバチ科)

学名: *Eucera spurcatipes*

単独



大きさ メスバチ: 約14mm
オスバチ: 約12mm

特徴 集団生活をするミツバチと異なり地中に穴を掘って単独営巣します。

訪花植物 レンゲ、ヒメジョオンなど

キムネクマバチ

(ミツバチ科)

学名: *Xylocopa appendiculata circumvolans*

単独



大きさ メスバチ: 18~25mm
オスバチ: 18~25mm

特徴 体は黒色で光沢があります。胸の毛が黄色です。クマンバチとも呼ばれます。

訪花植物 レンゲ、ヒメジョオンなど



植物の葉を食べて育つハチ

ハバチのなかま

特徴

ハバチやキバチのなかまは、ハチの進化的に最も古い分類群であると言われています。ハバチのなかまは植物に卵を産み、植物の葉を食べて育ちます。



ルリチュウレンジ

胸部と腹部

大きな特徴の一つとして、他のハチに比べて、腹部のくびれがなく寸胴な体系をしています。

産卵管

ハバチの産卵管は平たく、のこぎりのようなギザギザの刃があります。これは、植物に切れ込みを入れるのに使います。そのため、他の生き物を刺すことはありません。ちなみに、キバチのなかまは長い錐のような産卵管で、木の幹に産卵します。

幼虫のすがた

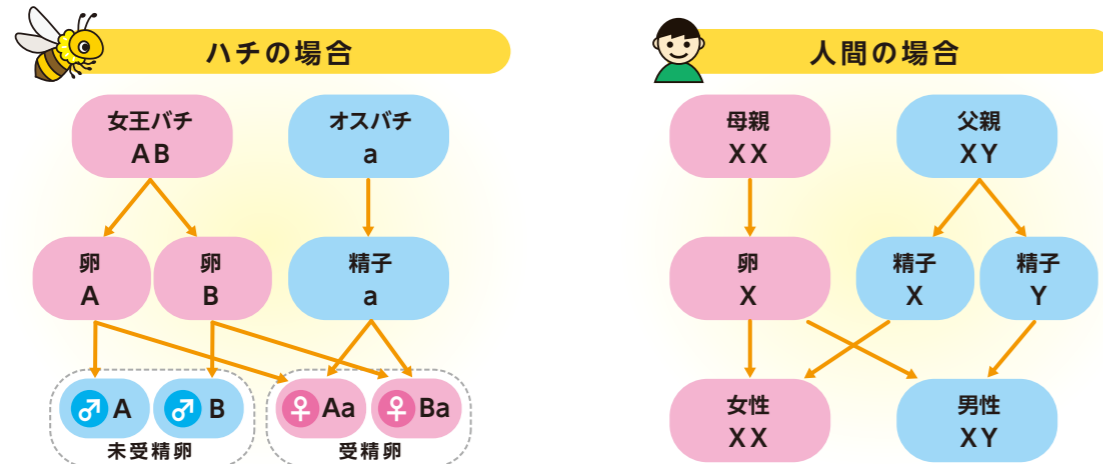
ハバチの幼虫はチョウやガの幼虫のような、イモムシ形によく似ています。長い毛をもたないことや、腹脚(歩くときなどに使うための腹部にある突起)が5対以上あることなどから見分けることができます。

ハチの雌雄の産み分け方

多くのハチのなかまは、染色体を1組持つ未受精卵から生まれてきます。これに対して、オスの2倍の染色体をもつ受精卵から生まれるのがメスです。つまり、メスバチには父親がいますが、オスバチには父親がいません。このように女王バチのみで、未受精の場合にオスのみを産む生殖方法を産雌性単為生殖(さんゆうせいいたんいせいしよく)と呼びます。

しかし、ハバチの中には、産雌性単為生殖(さんしせいいたんいせいしよく)というメスのみを産む種類が世界で100種以上いると言われています。メスのみで生殖を行うため、新しい地域に入った時も、オスを必要とせず、1個体だけでもその地域に定着することができます。

ちなみに人間の場合は、XとYの2つの染色体の組み合わせで性別が変わります。



目黒区で見られるハバチのなかま

ニホンチュウレンジ (ミフシハバチ科) 学名: *Arge nipponensis*



大きさ オスバチ: 7~8mm
メスバチ: 6~7mm

特徴 オス、メスともに頭部と胸部は黒色で、青色の光沢があります。腹部はオレンジ色です。

寄主植物 セイヨウバラ、テリハノイバラ、ノイバラ

ルリチュウレンジ (ミフシハバチ科) 学名: *Arge similis*

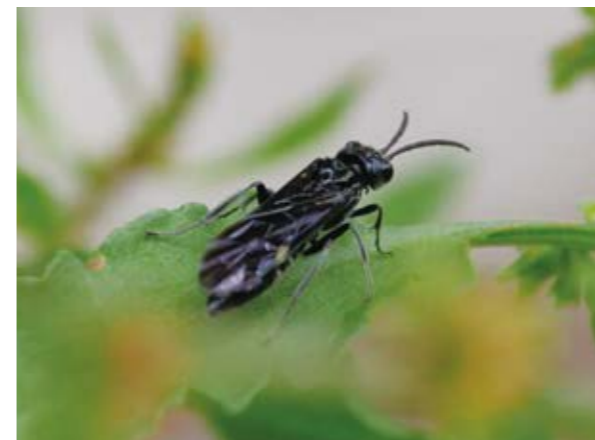


大きさ オスバチ: 9~11mm
メスバチ: 7~8mm

特徴 体全体が濃い藍色で光沢があります。サツキやツツジ類の葉を好みます。

寄主植物 オオムラサキツツジ、オオヤマツツジ、キリシマツツジ、ミツバツツジ、レンゲツツジなど

ハグロハバチ (ハバチ科) 学名: *Allantus luctifer*



大きさ メスバチ: 9~11mm
オスバチ: 8~9mm

特徴 ハグロハバチはイタドリやスイバなどの葉の表から産卵管を刺し込んで、卵を産み付けます。

寄主植物 イタドリ、スイバ類、ギシギシ

ニホンカブラカバチ (ハバチ科) 学名: *Athalia japonica*



大きさ メスバチ: 6~10mm
オスバチ: 5~7mm

特徴 アブラナ科の植物を食べるハチです。黒色の幼虫のため、「菜の黒虫(なのくろむし)」とも呼ばれています。

寄主植物 カブやダイコン、ワサビなどアブラナ科の植物

特徴

様々な昆虫(幼虫や卵も含む)やクモなどに卵を産み、寄生するハチのなかまを寄生バチと呼びます。



キンケハラナガツチバチ

目(ハチのなかま全般)

ハチのなかまは目が5個あります。3個は「単眼」と呼ばれ、光の強さを感じ取ることができます。残りの2個は「複眼」といい、約150個の小さなレンズの集まりで、外の情報を集めています。

胸部と腹部

寄生バチは効率よく、寄主(寄生される種)に産卵するために、くびれて動かしやすい腹部になっています。

産卵管

ウマノオバチという寄生バチのなかまは、体長15~25mm程度ですが、産卵管の長さはメスの体長の4~8倍の長さになります。

寄生の種類

寄生の種類を大きく分けると次のような種類になります。

1 外部寄生

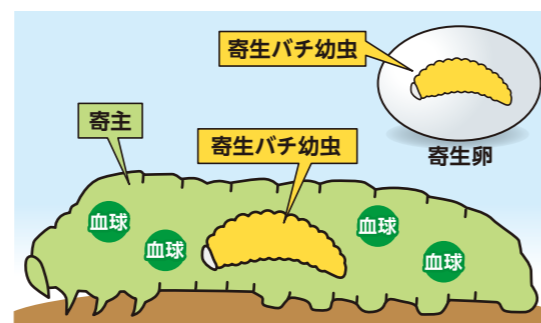
寄主となる幼虫やサナギの体の**表面**に産卵して寄生することを外部寄生といいます。孵化した幼虫は体の表面で生活します。そのため、天候(気温・天気)の影響を受けたり、外敵に狙われる可能性があります。P9で紹介している4種は全てこの外部寄生を行う種です。



2 内部寄生

寄主となる幼虫やサナギの体の**内部**に産卵して寄生することを内部寄生といいます。外部寄生のように外敵などに襲われる心配はないのですが、寄主の免疫(血球)から攻撃を受けてしまいます。そのため、内部寄生するハチのなかまは攻撃されないように対策をしています。

寄主が卵の場合は免疫(血球)が無いため、安全に育つことができます。小さな昆虫の卵に寄生するコバチ類は、体長0.2mm以下の種類もいます。



豆知識

寄生バチはあらゆる昆虫に寄生するのですが、なんと寄生バチにも寄生します。

ヒメハラナガツチバチ

(ツチバチ科)

学名: *Campsomeriella annulata annulata*



大きさ メスバチ: 19mm前後
オスバチ: 15mm前後

特徴 体は全体的に黒く、頭や胸の部分には白色の毛が生えています。ハラナガの名前の通り、腹部が長いのも特徴です。

寄生昆虫 マメコガネ属やスジコガネ属の幼虫

キンケハラナガツチバチ

(ツチバチ科)

学名: *Megacampsomeris prismatica*



大きさ メスバチ: 16~23mm
オスバチ: 17~27mm

特徴 体の色は黒色で、金色の毛が胸全体と腹部の各節の縁に生えています。メスは成虫で越冬しますが、オスは冬を越すことができません。

寄生昆虫 コガネムシ類の幼虫

キオビツチバチ

(ツチバチ科)

学名: *Scolia oculata*



大きさ メスバチ: 15~25mm
オスバチ: 11~20mm

特徴 体は黒色で、お腹に黄色の帯が入っています。メスは交尾後に、地中にあるコガネムシ類の幼虫を探して、産卵をします。

寄生昆虫 コガネムシ類の幼虫

サトセナガアナバチ

(セナガアナバチ科)

学名: *Ampulex dissector*



大きさ 15~18mm

特徴 体は緑青色の金属光沢があり、前胸部が前方に長くのびているのが特徴です。都内では、ソメイヨシノ、ケヤキ、イチヨウなどに隠れているクロゴキブリの幼虫を狩っています。

寄生昆虫 ゴキブリ類の幼虫



昆虫などを食べて育つハチ

カリバチのなかま

特徴

カリバチは狩りをするハチのなかまで、子育てのために昆虫やクモなどを捕えて巣に運びます。



フタモンアシナガバチ

はね 翅(ハチのなかま全般)

膜状の丈夫な4枚の翅を持っています。ハチのなかまは分類上、膜翅目(まくしもく)ともよばれますが、その由来にもなっています。

胸部と腹部

幼虫は昆虫やクモなどを食べますが、成虫になるとくびれができるため、食べたものを直接お腹の消化器官へ送ることができません。そのため、成虫は花の蜜や樹液などを食べています。

毒針

もともとは産卵管だったものが、狩りのための毒液を注入するためや、防御のための針になりました。産卵管と違って長い必要が無いため、短い針がついています。ちなみに、カリバチの産卵は産卵管を経由せず、直接産み落とされます。

ハチの進化の歴史



目黒区で見られるカリバチのなかま

コアシナガバチ (スズメバチ科) 学名: Polistes snelleni

社会性



巣の形



大きさ 女王バチ: 約16mm
働きバチ: 11~13mm
オスバチ: 12~14mm

特徴 体や翅は赤褐色で、腹部には黄色と赤褐色の斑紋があります。

獲物 昆虫、クモなど

オオスズメバチ (スズメバチ科) 学名: Vespa mandarinia

社会性



巣の形

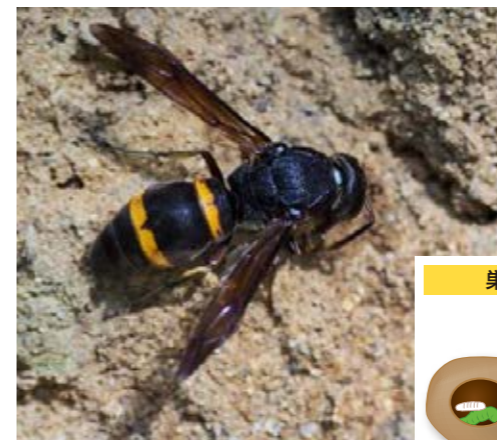


大きさ 女王バチ: 40~44mm
働きバチ: 26~38mm
オスバチ: 27~40mm

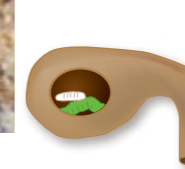
特徴 日本にいるハチ類の中では最大種です。毒性も強く、攻撃的な性質があります。ミツバチを襲うこともあります。

獲物 昆虫、クモなど

エントツドロバチ (スズメバチ科) 学名: Orancistrocerus drewseni



巣の形



大きさ 約18mm

特徴 泥で細長いドーム型の巣をつくります。下向きのトンネル(エントツ)を設置して入口にします。

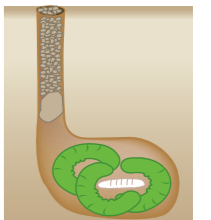
獲物 メイガ、ハマキガなど

サトジガバチ (アナバチ科) 学名: Ammophila vagabunda

単独



巣の形



大きさ 20~25mm

特徴 地面に深さ10cm位の穴を掘り、巣を作ります。巣には1つの部屋しかなく、その中に、チョウやガの幼虫を蓄え、産卵をしたあと巣を閉じます。

獲物 チョウ目の幼虫など

ハチ博士になるう!

ハチについて、クイズに挑戦してみましょう。

何問正解できるかな?
(答えはページの下にあるよ。)

Q1

ハチはみんな、
お尻に針を持っている
でしょうか?

針を持つのはメ斯巴チだけで、
オ斯巴チは針を持っていません。
ハチの針は産卵器官が変化したものなので、
メスしか針を持っていません。
ただし、ハバチのなかまは、
オスとメスどちらも針も持っていません。
(メスには産卵管があります。)

Q2

ミツバチの働きバチは、
オス・メスどちらで
しょうか?

ミツバチの巣の中には、それぞれの役割をもつハチがいます。
そして、その中の働きバチはメスだけで構成されています。

女王バチ 巣の中に1匹しか存在せず、卵を産む役割を担っています。

働きバチ 受精卵から産まれたハチですべてメスです。女王バチや幼虫の世話、エサ集め、巣作りなど様々な仕事をします。

オ斯巴チ 無精卵から産まれたハチです。エサ集めなどの仕事には参加せず、春から初夏に飛び立ち、他の巣から産まれた新女王バチと交尾した後はすぐに死んでしまいます。

Q3

ハチにそっくりな
虫がいる?

他の物に姿や形を似せることを擬態と言います。
実は、ハチの模様をマネする虫は多く、毒をもっているハチに姿を似せることで、外敵から襲われにくくしています。

擬態の例



セズジスカシバ(ガのなかま)

Q4

スズメバチは
黒色の服を着ている
人を刺しやすい?

スズメバチのなかまは黒色や茶色などの濃い色を知覚しやすいため、黒色の服が狙われやすくなるのではないかとされています。
また、天敵であるクマや人の頭、目(黒目)を狙うため、黒い色を狙う、という説もあります。
ハチが刺すのは、自分たちの巣が攻撃されそうな時や自分の身が危ない時です。
むやみに、巣に近づいたり、刺激しないようにしましょう。

Q5

ドローン(無人航空機)と
いう言葉の語源はハチ?

ドローンとは、プロペラを搭載した小型の無人航空機です。搭載されたカメラで撮影したり、産業用として使われることもあります。
そんなドローンの語源は、実はハチから来ています。
ミツバチのオスの事を英語でDrone(ドローン)と呼びその羽音と小型の無人航空機の音が似ていることからドローンと呼ばれるようになったと言われています(諸説あり)。

答え

Q1: 持っていない
Q2: メスです
Q3: いる
Q4: 刺しやすい!とされています
Q5: ハチです

普段食べている野菜や果物もハチのおかげ

ポリネーターって何?

植物の花粉を運んで、受粉を助けるいきものをポリネーターと言います。ポリネーターにとっては、エサとなる蜜や花粉を得ることができ、植物にとっては花粉を運んでもらうことができるという、お互いになくはない存在のため、共生関係が成り立っています。

ポリネーターとなる生きものはハチやチョウ、甲虫、鳥など様々ですが、花の色や形状などによって、訪れるポリネーターが変わります。

ハナバチのなかま



ハナバチは様々な花を訪れることができますが、ハナバチに来て欲しい花には、花が横～下向きで入り口が狭いなどの特徴があります。

鳥のなかま



メジロやヒヨドリなどは、蜜が多い赤い花によく訪れます。また、止まれる枝があることも重要です。

チョウのなかま



アゲハチョウのなかまは、赤い花に訪れやすいと言われています。ツツジの花は深い漏斗型になっていますが、このような花でもストロー状に伸びた口を挿して蜜を吸うことができます。

コウチュウのなかま



平らで浅い花に訪れます。コウチュウのなかまは視覚よりも嗅覚が発達しているため、花の匂いで誘引されることが多いです。

このポリネーターたちの中で、人間に大きく貢献しているのがハナバチです。

ハナバチの中でも、ミツバチは蜜が多い花に訪れ、体に花粉をつけて他の花に運びます。わたしたちが食べるイチゴやニンジンなどの作物のなかには、ミツバチが花粉を運んで実を作るものが多くあります。

一方で、ナス科の植物の多くは花の蜜を作らず、風の力を借りて花粉を飛ばしています。そのため、ハウス栽培では受粉率が低下してしまいます。蜜を作らないナス科の植物にはミツバチも訪れないため、ハウス栽培では、花粉だけの花にも訪れるマルハナバチがよく利用されています。

実は、世界の作物上位100種のうち75%が花粉媒介昆虫に依存していると言われています。また、そのうち80%がミツバチの力を借りています。花粉を媒介する昆虫の世界的な経済価値は、なんと約33兆円にもなります。

もし、ハナバチなどのポリネーターがいなくなると、スーパーや八百屋で売られる野菜や果物が少なくなってしまうかもしれません。

受粉を昆虫に100%依存している作物例

ニンジン、ブロッコリー、タマネギ、セロリ、アスパラガス、リンゴ、アーモンドなど



豆知識

家畜化に成功している代表的な昆虫はセイヨウミツバチとカイコです。



ハチに迫っている危機?!

実は、ハチにもある危機が迫っています。人の身近にいるからこそ分かることがあります。

【ほうぐんほうかいしょうこうぐん 蜂群崩壊症候群 (CCD)】

2006年以降、飼育されているミツバチがいなくなってしまう現象が起きています。これは蜂群崩壊症候群 (CCD) と呼ばれていて、疫病やウイルス、ダニ、使用されている農薬、携帯電話の発する電磁波など、様々な原因が考えられていますが、まだはっきりとしたことは分かっていません。他のポリネーターにも、同じようなことが起きている可能性はありますが、ミツバチは人間と近い関係にあるため、一早く異変に気付くことができました。

ミツバチ大量死や CCDが確認された国

フランス	ウクライナ	インド
ベルギー	ロシア	台湾
イタリア	タイ	ウルグアイ
ドイツ	スウェーデン	オーストラリア
スイス	スロベニア	日本
スペイン	イギリス	ニュージーランド
ギリシャ	中国	北アイルランド
オランダ	アメリカ	韓国
ポーランド	カナダ	チリ
ポルトガル	ブラジル	



出典:新農業ネオニコチノイドが脅かすミツバチ・生態系・人間 [改訂版(3)2016] (NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議)

Powered by Bing
© Australian Bureau of Statistics, GeoNames, Microsoft, NavInfo, OpenStreetMap, TomTom, Wikipedia

【外来種の問題】

外来種とは、人間の活動によって、もともと生息していなかった場所に入り込んだ生きもののことをいいます。ハチのなかにも、外来種があります。特に下記の2種は、在来の生きものに影響を及ぼす可能性があることから特定外来生物に指定されています。

ツマアカスズメバチ

もともとはインドネシアや台湾、タイなどの東南アジアに生息している種です。現在、日本では長崎県対馬市で定着が確認されており、福岡県、宮崎県、大分県でも野外での確認記録があります。在来のスズメバチ類や昆虫類などの生息に影響を及ぼす可能性があります。



環境省提供



環境省提供

セイヨウオオマルハナバチ

もともとはヨーロッパに生息する種です。現在、日本では北海道で定着が確認されており、他のいくつかの県でも野外での確認記録があります。在来のマルハナバチの生息に影響を及ぼす可能性があります。ただし、本種は、ナス科の植物(ナス、トマトなど)のポリネーターとして農業に大きく貢献しているため、栽培施設内でのポリネーターとしての産業利用に限り特別に許可がなされています。

「外来種」と一括りにして全てを除外すればよい、という訳でも無いため、上手に付き合っていく必要があります。



街の中でハチを育てる「都市養蜂」ってなんだろう?

都市養蜂は、自然との触れ合い機会の創出や地域ブランディングのために日本各地で行われています。都市部にいながら、身近な公園や花壇で活動するミツバチを観察することができ、ハチミツの収穫を通じて自然の恵みを直接的に感じることができます。

また、ハチミツはその土地で生産されたものとして付加価値がつくため、地域の魅力や価値を発信することに繋がります。目黒区内で実際に行われている都市養蜂を紹介します。

【自由が丘 丘ばちプロジェクト】

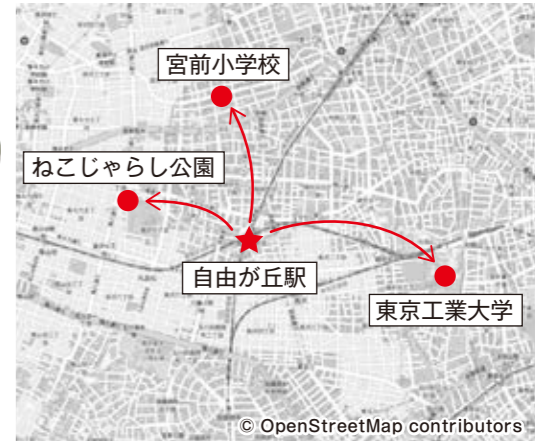
自由が丘でも、駅近くのビルの屋上で都市養蜂を行っています。街の緑化に取り組む「自由が丘森林化計画」のメイン事業として2009年3月に始まりました。「ミツバチは、人と自然をつなぐもの」というコンセプトのもと6群のハチを育てています。



©milkpillow
丘ばちくん



養蜂の様子



ミツバチの活動が確認されている場所



自由が丘商店街振興組合
中山 雄次郎 氏

毎年、良質なハチミツが取れます。それだけ、自由が丘の緑や花が豊かであるということを知っていただきたいです。

自由が丘にもツバメが飛来し、「ミツバチ」をエサとしており、生物のつながりを感じています。

自由が丘では、バラを広げる活動が行われています。このような蜜源植物を増やす活動がハチミツづくりに結びついていると感じています。



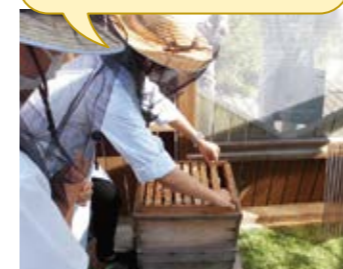
【日本工業大学駒場中学高等学校・園芸養蜂愛好会 ~日駒ニホンミツバチプロジェクト~】

2013年に発足した「園芸養蜂愛好会」は、学校の屋上でニホンミツバチの飼育・観察を行っています。また、ミズコンポストのたい肥作りやホップを利用した壁面緑化(グリーンカーテン)を行うなど循環型の「日駒エコキャンパス」を目指して活動しています。



屋上に設置された飼育スペース

最初は怖かったけど、慣れたらミツバチもかわいく感じます。



ミツバチや巣の状態を観察・記録します。



採れたてを食べられるのも活動の魅力の一つ。



活動メンバー

須田 真一(東京大学総合研究博物館研究事業協力者)

ハチの仲間(膜翅目)は昆虫の中でも種数が多く、分類学上は同じ仲間に含まれるアリの仲間も含めて、学名の付けられているものだけでも約12万種、実際にはその倍以上の種類が知られています。日本だけでも4,500種以上が知られていて、私たちの身近にもいろいろなハチが暮らしています。

ハチの中で私たちにとって最も役に立っているのはミツバチでしょう。ミツバチはハチミツを利用するだけでなく、花粉を運んで他の花へ受粉させる「ポリネーション」という行動を通じて、私たちが食べる野菜や果物を実らせてくれる、というとても大切な役割を担ってくれています。

これらは私たちから見たミツバチの恩恵ですが、もちろんミツバチは人のためだけに働いているわけではなく、本来は自然の中での役割があって、その働きを私たちが上手く利用している、ということになります。ポリネーションはミツバチだけでなく、花蜜や花粉を集めるハチに広く見られることです。中には特定の花だけに集まるハチや(写真1)、花とハチの間で共生関係を持つものもあります。このことによって花は確実に同じ種類へ花粉を届けても

らい、ハチはその花の蜜や花粉を独占できる、というメリットがあります。これは花とハチが長い進化の歴史の中で獲得した生存戦略と考えられています。このことから、ハチは植物の多様性を支える大きな役割を担っていると共に、ハチの多様性を植物が支えている、ということが分かります。

スズメバチの仲間は攻撃性が高く毒性も強いものが多いためにとっても怖がられています。少し小型で細身なアシナガバチの仲間も同じように怖がられていることが多いようです。そのために見つけ次第駆除されたりもしますが、これらのハチは他の昆虫を沢山食べることで害虫などの大発生を防ぐ、という生態系を調節する役割も持っています(写真2)。ハチの中にはカブラハチ類など、幼虫が野菜の害虫となっている種類もありますが、これらを食べてくれるのもまたハチ、ということになります。確かに巣に近づきすぎたり刺激したりすると危険ですが、こちらから不用意なことをしない限りは襲ってくることはありませんので、危険性のない場所であれば巣を見つけてもそっと見守る、ということも身近な自然や生物多様性を豊かなものとする上で大切なことです。



写真1: ウツギの花だけに集まるウツギノヒメハチ



写真2: ガの幼虫を捕らえたキアシナガバチ

(1) このリストについて

- 目黒区が保有する生きものの情報※をもとに、ハチ目(アリのなかまを除く)を抜粋して作成した。
※目黒区都市整備部みどり土木政策課が保有する自然環境等に関する記録をデータベース化し、2009年にホームページなどで公開した「目黒区いきもの住民台帳暫定版」を基本とし、膜翅目のリスト部分を2021年までの記録を加えて更新したもの。種の同定資料がないために従前のリストから削除した記録もある。
- 科の分類および科と科内の配列、学名は基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(2021年8月10日更新)に従い、掲載されていない種の学名は出典を示した。
- 保護上重要な種は、和名の後にランクを略称で記載した。略称とカテゴリー名と基本概念については表1に示した。
- 外来種は、和名の後に「*外」を記載した。なお、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づく特定外来生物および我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト該当種は確認されなかった。

(2) このリストの見方

種名	目黒区の記録 観察年																
	69年以前	70年代	80年代	90年代	00年代	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
68 クロマルハナバチ 国NT <i>Bombus ignitus</i>				○	○						○						
1997/8/- (柿の木坂2); 2015/4/22 (柿の木坂2<呑川柿の木坂支流緑道>)																	

- ① 通し番号
- ② 保護上重要な種には和名のあとにランクを記載した。
- ③ 2000年以降については年別の表記式で示した。○:目黒区内で確認された記録
- ④ 1920年以降の初記録と最新の記録を町丁目単位で記載した。
例)初記録年月日(町丁目);最新記録年月日(町丁目)
町目は町名の後に数字で示した。例)駒場1丁目⇒駒場1
公園など観察場所の明確な地名があるものはその名称を町丁名のあとに記載した。
観察日の詳細記録がない場合は「-」で示した。例)1972/6/-

表1. 保護上重要な種

カテゴリー名	略称	基本概念(抜粋:詳細は原典を参照してください)※
絶滅	EX	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	EW	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ 存続している種
絶滅危惧I類	CR+EN	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧IA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類	EN	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類	VU	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性があるもの
情報不足	DD	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある 地域個体群	LP	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧I類	CR+EN	現在の状態をもちたしした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧IA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧IB類	EN	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類	VU	現在の状態をもちたしした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	※	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、その動向に留意する必要があるもの

※「環境省レッドリスト2020(2020:環境省)」及び「東京都レッドリスト(本土部)2020年版(2020:東京都環境局)」による

種名	目黒区の記録 観察年																
	69年 以前	70 年代	80 年代	90 年代	00 年代	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年
●ミフシハバチ科																	
1 ニレチュウレンジ <i>Arge captiva</i>					○												
	2004/6/11(三田2<目黒清掃工場緩衝緑地>);2004/6/21(三田2<目黒清掃工場緩衝緑地>)																
2 アカスジチュウレンジ <i>Arge nigronodosa</i>								○									
	2013/5/14(駒場2<駒場野公園>);004/6/21(三田2<目黒清掃工場緩衝緑地>)																
3 ニホンチュウレンジ <i>Arge nipponensis</i>				○	○												
	1998/5/5(駒場2<駒場野公園>);2004/4/18(大岡山2)																
4 ルリチュウレンジ <i>Arge similis</i>			○	○	○	○			○	○							○
	1982/7/29(駒場2<駒場野公園>);2021/11/4(東が丘2<東京都立駒沢オリンピック公園>)																
●ハバチ科																	
5 ハグロハバチ <i>Allantus luctifer</i>													○	○			
	2017/5/16(中目黒2<中目黒公園>);2018/8/21(中目黒2<中目黒公園>)																
6 シモツケマルハバチ <i>Apareophora japonica</i>					○									○			
	2009/5/23(中目黒2<中目黒公園>);2017/5/30(中目黒2<中目黒公園>)																
7 セグロカブラハバチ <i>Athalia infumata</i>			○				○	○									
	1982/7/1(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2020/5/28(鷹番3)																
8 ニホンカブラハバチ <i>Athalia japonica</i>							○			○							
	2011/5/(青葉台2<菅刈公園>);2021/7/27(中目黒2<中目黒公園>)																
9 ムギハバチ <i>Dolerus lewisii</i>					○												
	1982/4/23(目黒区内)																
10 チャイロハバチ <i>Nesotaxonus flavescens</i>					○								○				
	2004/6/3(駒場4<駒場公園>);2017/10/6(駒場2<駒場野公園>)																
●キバチ科																	
11 ニホンキバチ <i>Urocerus japonicus</i>					○												
	1982/8/15(中央町2<中央緑地公園>)																
●クキバチ科																	
12 バラクキバチ <i>Syrista similis</i>					○												
	2003/5/(大岡山2);2004/4/29(大岡山2)																
●ヒメバチ科																	
13 イヨヒメバチ*1 <i>Amblyjoppa proteus satanas</i>					○												
	2003/10/17(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
14 クロモンアメバチ*1 <i>Dicamptus nigropictus</i>				○					○								
	1982/6/4(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2013/5/14(青葉台2<菅刈公園>)																
15 コンボウアメバチ*1 <i>Habronyx insidiator</i>					○												
	1981/8/24(駒場2<駒場野公園>);1983/6/9(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
16 マダラヒメバチ*1 <i>Ichneumon yumyum</i>				○	○												
	1983/7/19(駒場3<東京大学駒場Iキャンパス>);2005/6/17(中目黒2<中目黒公園>)																
17 アオムシヒラタヒメバチ*1 <i>Itoplectis naranyae</i>				○													
	1982/7/28(中目黒2<防衛省技術研究所>)																
18 オオホシオナガバチ*1 <i>Megarhyssa praecellens</i>					○												
	2004/4/20(駒場2<駒場野公園>)																
19 クロハラヒメバチ*1 <i>Quandrus pepsoides</i>					○												
	1983/9/29(中目黒2)																
●アシプトコバチ科																	
20 キアシプトコバチ <i>Brachymeria lasus</i>													○				
	2013/8/27(駒場4<駒場公園>)																

種名	目黒区の記録 観察年																
	69年 以前	70 年代	80 年代	90 年代	00 年代	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年
●ヒメコバチ科																	
21 ゴキブリコバチ*2 <i>Tetrastichus hagenowii</i>																	○
	2019/11/4(駒場2<駒場野公園>)																
●タマバチ科																	
22 クスギハマルタマバチ*2 <i>Aphelonyx acutissimae</i>					○												
	2004/8/19(駒場2<駒場野公園>)																
23 ニホンノイバラタマバチ*2 <i>Diplolepis japonica</i>					○												
	2007/8/11(駒場3<東京大学駒場Iキャンパス>)																
●スズメバチ科																	
24 オオフタオビドロバチ本土亜種 <i>Anterhynchium flavomarginatum micado</i>				○													○
	1982/6/25(駒場4<駒場公園>);2019/10/1(中目黒2<中目黒公園>)																
25 キボシトックリバチ 都NT <i>Eumenes fraterculus</i>														○			
	2013/8/27(駒場4<駒場公園>)																
26 エントツドロバチ <i>Orancistrocerus drewseni</i>																○	
	2017/6/14(駒場2<駒場野公園>)																
27 スズバチ <i>Oreumenes decoratus</i>					○					○	○			○	○	○	○
	1983/6/22(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2020/10/11(駒場2<駒場野公園>)																
28 ムモンホソアシナガバチ <i>Parapolybia crocea</i>															○		○
	2004/5/11(駒場2<駒場野公園>);2021/8/21(駒場2<駒場野公園>)																
29 ナミカバフドロバチ <i>Pararrhynchium ornatum</i>				○									○				○
	1983/7/26(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2020/8/16(駒場2<駒場野公園>)																
30 フタモンアシナガバチ本土亜種 <i>Polistes chinensis antennalis</i>				○	○	○								○	○		
	1982/7/28(中目黒2<防衛省技術研究所>);2016/5/3(中目黒2<中目黒公園>)																
31 セグロアシナガバチ本土亜種 <i>Polistes jokahamae jokahamae</i>				○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/4/23(駒場2<駒場野公園>);2021/8/17(中目黒2<中目黒公園>)																
32 キボシアシナガバチ <i>Polistes nipponensis</i>					○												
	1982/7/28(中目黒2<防衛省技術研究所>)																
33 キアシナガバチ本土亜種 <i>Polistes rothneyi iwatai</i>															○		○
	2015/6/16(柿の木坂3<呑川柿の木坂支流緑道>);2020/9/1(中目黒2<中目黒公園>)																
34 コアシナガバチ <i>Polistes snelleni</i>				○	○	○								○			
	1982/5/12(東山);2013/8/4(鷹番3)																
35 キオビチビドロバチ <i>Stenodynerus frauenfeldi</i>				○	○	○											
	1983/7/15(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2010/8/26(中目黒2<中目黒公園>)																
36 コガタスズメバチ <i>Vespa analis</i>				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/2/7(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2021/6/29(中目黒2<中目黒公園>)																
37 モンスズメバチ 国DD <i>Vespa crabro</i>															○	○	○
	2017/9/9(駒場2<駒場野公園>);2019/6/11(中目黒2<中目黒公園>)																
38 ヒメスズメバチ <i>Vespa ducalis</i>														○	○	○	○
	1998/6/16(緑が丘2<緑ヶ丘小学校>);2020/8/16(駒場2<駒場野公園>)																
39 チャイロスズメバチ <i>Vespa dybowskii</i>																○	
	2017/9/10(駒場2<駒場野公園>)																
40 オオスズメバチ <i>Vespa mandarinia</i>					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1983/6/9(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2021/10/7(駒場2<駒場野公園>)																
41 キロスズメバチ*3 <i>Vespa simillima</i>				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/6/22(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2020/6/16(中目黒2<中目黒公園>)																
42 クロスズメバチ <i>Vespula flaviceps</i>				○	○												○
	1982/7/28(目黒2<目黒区民センター公園>);2020/11/10(中目黒2<中目黒公園>)																

■学名出典

※1:日本産ヒメバチ目録 Check list of Japanese Ichneumonidae (愛媛大学ミュージアム 閲覧日:2022年3月5日)

<http://web.agr.ehime-u.ac.jp/~entomology/mokuroku/>

※2:東京都本土昆虫目録(東京都本土昆虫目録作成プロジェクト 閲覧日:2022年3月5日)

<http://tkm.na.coocan.jp/>

※3:北海道から大陸に分布するケブカスズメバチの亜種とされることもあります。

種名	目黒区の記録 観察年																
	69年 以前	70 年代	80 年代	90 年代	00 年代	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年
●クモバチ科																	
43 オオモンククロクモバチ <i>Anoplius samariensis</i>																	○
	2013/8/28(青葉台2<菅刈公園>)																
44 ナミヒメクモバチ <i>Auplopus carbonarius (s. l.)</i>			○														
	1982/10/15(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
45 ベッコウクモバチ <i>Cyphononyx fulvognathus</i>			○														
	1983/7/15(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
●アリバチ科																	
46 トゲムネアリバチ <i>Bischoffitilla ardescens</i>			○	○													
	1982/7/9(下目黒5<東京都立林試の森公園>);1998/-/(駒場2<駒場野公園>)																
●コツチバチ科																	
47 ツヤアリバチ <i>Methocha japonica</i>																	○
	2010/8/26(駒場2<駒場野公園>)																
●ツチバチ科																	
48 ヒメハラナガツチバチ本土亜種 <i>Campsomeriella annulata annulata</i>			○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/8/11(駒場2<駒場野公園>);2020/10/20(中目黒2<中目黒公園>)																
49 オオハラナガツチバチ <i>Megacampsomeris grossa matsumurai</i>			○			○			○								
	1982/9/29(中目黒2<防衛省技術研究所>);2014/10/9(駒場4)																
50 キンケハラナガツチバチ <i>Megacampsomeris prismatica</i>			○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1983/5/17(碑文谷4);2021/11/4(駒場2<駒場野公園>)																
51 コモンツチバチ <i>Scolia decorata ventralis</i>									○			○	○	○			
	2013/8/27(駒場4<駒場公園>);2018/9/4(中目黒2<中目黒公園>)																
52 アカスジツチバチ本土亜種 <i>Scolia fascinata fascinata</i>			○						○								
	1983/7/14(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2016/7/1(駒場2<駒場野公園>)																
53 キオビツチバチ <i>Scolia oculata</i>				○					○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2004/8/26(中目黒2<中目黒公園>);2021/8/17(中目黒2<中目黒公園>)																
●セナガアナバチ科																	
54 サトセナガアナバチ *外 <i>Ampulex dissector</i>																	○
	2018/8/17(南1);2021/10/26(大岡山2<東京工業大学>)																
●ギングチバチ科																	
55 ヤマトゲアナバチ <i>Oxybelus strandi</i>			○														
	1982/7/23(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
●フシダカバチ科																	
56 ナミツチスガリ <i>Cerceris hortivaga</i>				○	○	○											
	1995/8/20(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2010/8/26(中目黒2<中目黒公園>)																
●アナバチ科																	
57 サトジガバチ <i>Ammophila vagabunda</i>																	○
	2021/8/26(中目黒2<中目黒公園>)																
58 コクロアナバチ <i>Isodontia nigella</i>																	○
	2010/8/26(中目黒2<中目黒公園>)																
59 キゴシジガバチ*4 都DD <i>Sceliphron madraspatanum</i>			○														
	1982/7/28(中目黒2<防衛省技術研究所>)																
60 クロアナバチ本土亜種 <i>Sphex argentatus fumosus</i>																	○
	2010/8/26(駒場2<駒場野公園>);2018/8/15(駒場2<駒場野公園>)																
●ヒメハナバチ科																	
61 ヤヨイヒメハナバチ <i>Andrena hebes</i>			○														
	1982/3/27(八雲3<宮前小学校>)																
62 ミツクリフシダカヒメハナバチ <i>Andrena japonica</i>			○														
	1983/6/22(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
63 キバナヒメハナバチ <i>Andrena knuthi</i>			○														
	1983/5/14(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																

※4: 外来種という見解もあります。

種名	目黒区の記録 観察年																
	69年 以前	70 年代	80 年代	90 年代	00 年代	10 年	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年
●ミツバチ科																	
64 ニホンミツバチ <i>Apis cerana japonica</i>			○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/3/25(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2021/8/29(大岡山2<東京工業大学>)																
65 セイヨウミツバチ *外 <i>Apis mellifera</i>			○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/3/17(緑が丘1);2021/11/3(中目黒2<中目黒公園>)																
66 コマルハナバチ本土亜種 <i>Bombus ardens ardens</i>			○	○	○				○	○		○	○	○			○
	1982/6/- (鷹番1);2021/7/19(下目黒5)																
67 オオマルハナバチ本土亜種 <i>Bombus hypocrita hypocrita</i>																	○
	2011/5/- (青葉台2<西郷山公園>)																
68 クロマルハナバチ 国NT <i>Bombus ignitus</i>																	○
	1997/8/- (柿の木坂2);2015/4/22(柿の木坂2<呑川柿の木坂支流緑道>)																
69 キオビツヤハナバチ <i>Ceratina flavipes</i>			○														
	1982/7/23(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
70 ニッポンヒゲナガハナバチ <i>Eucera nipponensis</i>			○														○
	1982/3/24(中目黒0);2018/5/15(中目黒2<中目黒公園>)																
71 シロスジヒゲナガハナバチ <i>Eucera spurcatipes</i>			○														○
	1983/5/17(駒場2<駒場野公園>);2018/5/22(中目黒2<中目黒公園>)																
72 キムネクマバチ <i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	1982/4/19(中目黒4);2021/8/26(中目黒2<中目黒公園>)																
●コハナバチ科																	
73 アカガネコハナバチ <i>Halictus aerarius</i>			○	○													○
	1983/5/14(下目黒5<東京都立林試の森公園>);2013/8/27(駒場4<駒場公園>)																
74 シロスジカタコハナバチ <i>Lasioglossum occidens</i>			○														
	1982/7/23(下目黒5<東京都立林試の森公園>)																
75 アオスジハナバチ <i>Nomia incerta</i>																	○
	2004/9/3(駒場2<駒場野公園>);2010/10/15(中目黒2<中目黒公園>)																
●ハキリバチ科																	
76 ヤトガリハナバチ <i>Coelioxys yanonis</i>																	○
	1995/-/(三田2<目黒清掃工場>);2010/8/26(駒場2<駒場野公園>)																
77 ハラアカヤドリハキリバチ <i>Euasps basalis</i>																	○
	2010/8/26(駒場2<駒場野公園>);2013/8/27(駒場2<駒場野公園>)																
78 バラハキリバチ本土亜種 <i>Megachile nipponica nipponica</i>																	○
	2013/8/27(駒場2<駒場野公園>);2013/8/28(青葉台2<菅刈公園>)																
79 クズハキリバチ 国DD <i>Megachile pseudomonticola</i>																	○
	1982/8/21(駒場2<駒場野公園>)																
80 オオハキリバチ <i>Megachile sculpturalis</i>																	○
	1982/8/21(駒場2<駒場野公園>);2015/10/15(原町2<原町小学校>)																
81 ツルガハキリバチ <i>Megachile tsurugensis</i>																	○
	2010/8/26(駒場2<駒場野公園>)																
82 ムナカタハキリバチ本土亜種 <i>Megachile willughbiella sumizome</i>																	○
	2016/5/31(中目黒2<中目黒公園>)																
83 ツツハナバチ <i>Osmia taurus</i>																	○
	2013/8/27(駒場4<駒場公園>)																



ハチが好きなのはどんな場所？（解析結果）

これまで見てきたハチについて、1960年代から2021年末までの83種943件のデータを用いて以下のような視点で解析を行いました。

- 観察種数が多い場所はどこか。
- 多く観察されている場所の環境※1はどのようなものか。

特に観察種数が多かったのは、中目黒2丁目(42種)、駒場2丁目(42種)、下目黒5丁目(29種)、青葉台2丁目(22種)、駒場4丁目(20種)の5地域でした。これらの地域には、いずれも公園緑地があり、過去に、専門家による昆虫類の調査が行われているために、観察種数も多くなっていました。

町丁目ごとの自然的土地利用(緑被面積+水面面積+裸地面積の割合)との関係を見ると、自然的土地利用が高いほど、観察種数が多い傾向がみられました(図1)。

また、「目黒区生物多様性地域戦略」(2014年3月)において、「新しいみどりの風景」の指標種に選定されているニホンミツバチの観察例数を整理しました。町丁目ごとの確認例数と、草地在占める割合との関係を見ると、草地在占める割合が高いほど、観察例数が多い傾向がみられました(図2左)。また、養蜂種として利用されているセイヨウミツバチについても同様の傾向がみられました(図2右)。

これらのミツバチにとって、公園内の草地やその周辺の花壇に咲く花が重要な資源になっていると考えられます。

※1:環境条件としてみどりの実態調査(目黒区:2015)を使用。

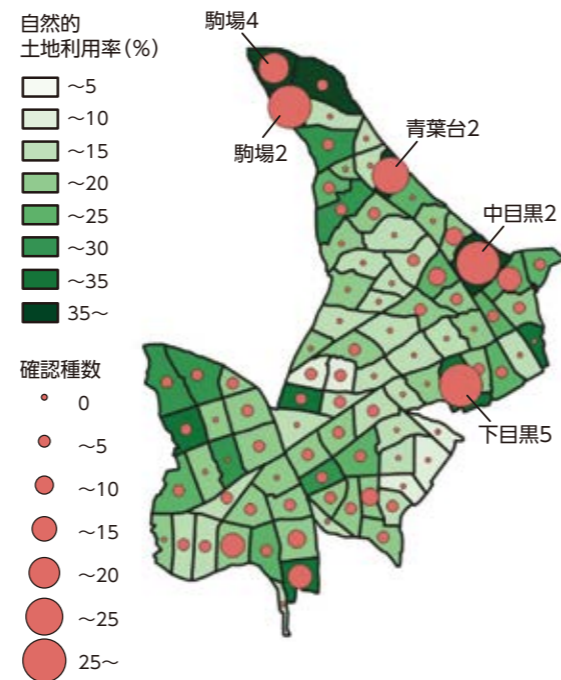


図1. 町丁目別自然的土地利用とハチ観察種数

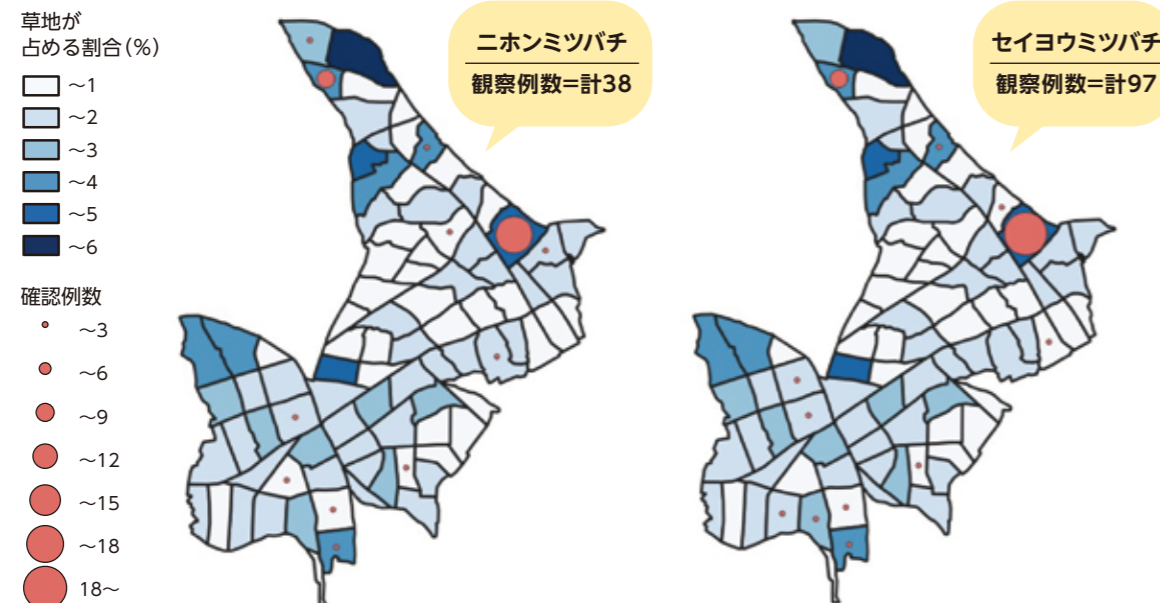


図2. 町丁目別の草地在占める割合とミツバチ観察例数

ハチが好きなのはこんな場所!

- ①みどりや水辺、裸地など多様な自然環境があるところ
- ②ミツバチなどにとっては、草地やその周辺の花壇に咲く花も重要な資源

●参考資料等

「スズメバチの真実」(2018:中村雅雄)
「THE BEE BOOK ミツバチの教科書」(2017:フォーガス・チャドウィック/スティーブ・オールトン/エマ・サラ・テナント/ビル・フィツモーリス 監修:中村純 訳:伊藤伸子)
「日本産マルハナバチ図鑑」(2013:木野田君公・高見澤今朝雄・伊藤誠夫)
「寄生バチと狩りバチの不思議な世界」(2020:前藤薫)
「昆虫好きの生態観察図鑑IIコウチュウ・ハチ・カメシ他」(2012:鈴木悦司、鈴木悦子)
「世界のミツバチ・ハナバチ百科図鑑」(2015:ノア・ウィルソン=リッチ 日本語版監修:原野健一 訳者:矢能千秋・寺西のぶ子・夏目大)
「ミツバチは本当に消えたか?」(2010:越中矢住子)
「ハチのくらし大研究 知恵いっぱいの子育て術」(2016:松田喬)
「日本産ハナバチ図鑑」(2014:多田内修・村尾竜起)
「日本の真社会性ハチ」(2005:高見澤今朝雄)
「日本産ハバチ・キバチ類図鑑」(2020:内藤親彦・篠原明彦・原秀穂・伊藤ふくお)
「狩り生態図鑑~ハンティング行動を写真で解く~」(2012:田仲義弘)
「改訂新版 世界文化生物大図鑑 昆虫I チョウ・バッタ・トンボなど」(2004:小林公成)
「ポリネーターの利用」(1996:松香光夫)

「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度生物リスト(国土交通省 水管理・国土保安局 閲覧日:2022年2月24日) <http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukoku-web/system/seibutsuListfile.htm>
「侵入生物データベース 日本の外来生物」(国立環境研究所 閲覧日:2022年1月10日) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/index.html>
「日本の外来種対策」(環境省 自然環境局 閲覧日:2022年1月10日) <https://www.env.go.jp/nature/intro/>
「気をつけて!危険な外来生物」(東京都環境局 閲覧日:2022年1月10日) <https://gairaisyu.metro.tokyo.lg.jp/index.html>
「新農薬ネオニコチノイドが脅かすミツバチ・生態系・人間」[改訂版(3)2016] (NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議 閲覧日:2022年3月15日) <https://kokumin-kaigi.org/wp-content/uploads/2017/04/-neonicover3-1.pdf>

●目黒区の資料

「目黒区みどりの基本計画」(2016:目黒区)
「目黒区のみどりーみどりの実態調査報告書」(2015:目黒区)
「目黒区生物多様性地域戦略ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画」(2014:目黒区)
「めぐろのいきもの80選」(2014:目黒区)
「みどりの散歩道コースガイド改訂版」(2017:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野鳥」(2015:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蝶と蛾」(2016:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 土をめぐる生物」(2018:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蜘蛛」(2019:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の甲虫」(2020:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 暫定版リスト」(2009:目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の水辺のいきもの」(2021:目黒区)

●目黒区の生物多様性とみどりのまちづくりについて
(野鳥のすめるまちづくり計画・いきもの住民台帳・みどりの実態調査・みどりの基本計画など)
<http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/shizen/ikimono/tayosei.html>

●自然通信員について
(事業の紹介、ニュースレターのダウンロードなど)
<http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/shizen/ikimono/johokyoku/download.html>

●作成協力 須田 真一

●イラスト 水谷 高英
(区民による身近な生物調査環境学習資料)

●写真 山崎 誠
須田 真一
自然通信員のみなさん ほか

●カラー版 ダウンロード
(ホームページでは観察記録の詳細も公開予定です)
http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/tokei/chosa_hokoku/ikimono_daicho.html

めぐろグリーンデータブック 2021 目黒区いきもの住民台帳 - 身近に暮らすみどりのなかまたち -

目黒区のハチ List of bees of Meguro City

発行 初版 2022 (令和4)年3月31日 目黒区©
〒153-8573 目黒区上目黒 2-19-15
目黒区都市整備部みどり土木政策課みどりの係 《めぐろいきもの气象台》
電話: 03-5722-9355 (直通) FAX: 03-3792-2112 E-mail: sizen@city.meguro.tokyo.jp
印刷 有限会社ジンキッズ
制作・編集 アオイ環境株式会社

主要印刷物番号
3 - 48



(本冊子は区政情報コーナー・区立図書館で閲覧できます)

目黒区緑化都市宣言

みどりのまちをつくるちかい

思い出してほしい
わたしたちがみどりの中に 生まれ
育ったことを
青い空 木々のこもれ日 季節のささやき
よびかけてる 誰もみな みどりの仲間だと

忘れないでほしい
木も草も 虫も鳥たちもともに暮らす
大切な家族
だから今 かけがえのない 母なる地球を
みんなで分けあっていこう

さあ 始めよう
ひと粒の小さな種をまくことから
大地に根をはり
すくすく枝をのぼし
鳥たちがうたい
人びとがやすらぐ
一本の木の種

わたしたちの手で わたしたちの心に
こどもたちに伝える
森をつくろう

1990年10月28日



国連生物多様性の10年-自然と共生する社会を目指して
目黒区は生物多様性地域戦略を推進しています



目黒区生物多様性地域戦略
ささえあう生命の輪
野鳥のすめるまちづくり計画

自然情報・自然通信員募集

庭や公園、校庭などで観察した1つ1つの観察記録がみどりを守り、回復していく貴重な資料になります。年月日、種名(はつきりわからないときは○○類、○○のなかまとします)、場所(公園名、お庭などの町名番地)、いた環境、個体数などの観察した内容、あれば写真などをみどり土木政策課みどりの係まで郵便・FAX・メール(連絡先は23ページを参照)でお送りください。お送りいただいた方は自然通信員として登録し、年数回、調査結果などをまとめたニュースレターを郵送いたします(無料)。